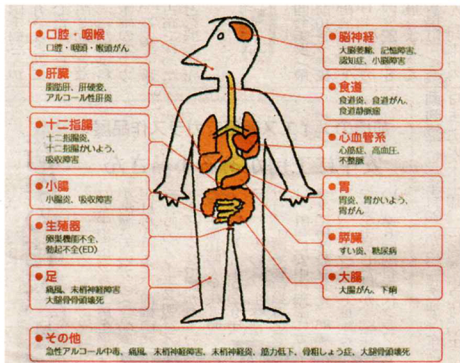


## お酒の飲み過ぎが原因となる身体の病気



日本新薬「アルコール依存症ナビ」から承諾を得て転載

# ⑫ アルコールによる健康障害

## 人生100年時代の健康管理



【プロフィール】広島県生まれ。1976年広島大学医学部卒業後、聖路加国際病院内科勤務。99年東京医科大学大学循環器内科主任教授。2020年から現職。総合内科専門医、日本循環器学会専門医、元日本循環器病予防学会理事長。

山科 章  
桐生大学 桐生学芸部大群神経学 准教授  
山科 章  
桐生大学 桐生学芸部大群神経学 准教授

前回、アルコールの摂取、代謝および急性アルコール中毒について健康障害について説明

お酒が肝臓に悪いことは誰もが知っていますが、飲み過ぎが続く系、脳神経、筋肉、循環器を全身的にダメージを与えています。肝臓や肝臓線維症になり、この時期には肝臓のある右上腹部の腫れを感じや筋力が起る感じが起ります。しかも飲酒を続ける、肝臓病の末

また臓器に障害を起します。  
常習的な飲酒で初期におこる内臓障害は脂肪肝です。自覚症状がないので血液検査と超音波検査で初めて診断されます。この段階で禁酒すれば肝臓の状態は回復しますが、続けているとアルコール性肝炎や肝臓線維症になり、この時期には肝臓のある右上腹部の腫れを感じや筋力が起る感じが起ります。しかも飲酒を続ける、肝臓病の末

## 保健・福祉

期状態である肝臓変、さらには肝がんになる危険性があります。  
肝臓(すいぞう)もアルコールの標的臓器です。急性肝炎慢性肝炎を起しますが、男性の急性肝炎の半数近くはアルコール性です。肝臓細胞が傷害されて食べ物を消化する能力(消化酵素)も減り、自らを消化して破壊する病気に化して、周辺臓器まで炎症が波及すると、重篤な状態

になります。慢性肝炎を起しやすくなり移行する肝臓線維化を起し、肝臓の重要な機能である消化酵素やホルモンの分泌が低下します。肝臓からインスリンが分泌されなくなるので糖尿病になります。アルコールは、胃腸を直接に障害するほか、血糖の血流や消化液の分泌などに影響を与えます。水分やミネラル電解質の吸収、糖や脂肪の分解・吸収も低下させるので下痢を起しやすくなり、ビタミンB<sub>1</sub>が欠乏すると、脚気(多発神経炎)を起しやすくなり、また貧血や末梢神経炎、手足のしびれや感覚の異常が起ります。そのほか、高血圧、骨粗しょう症、不眠や安眠薬うつ状態などの精神症状、認知症、さまざまがんの原因にもなると分かっています。ほとんど飲酒が肝臓です。  
※今回は、ひよっしアルコール依存症ではして。

になります。慢性肝炎を起しやすくなり移行する肝臓線維化を起し、肝臓の重要な機能である消化酵素やホルモンの分泌が低下します。肝臓からインスリンが分泌されなくなるので糖尿病になります。アルコールは、胃腸を直接に障害するほか、血糖の血流や消化液の分泌などに影響を与えます。水分やミネラル電解質の吸収、糖や脂肪の分解・吸収も低下させるので下痢を起しやすくなり、ビタミンB<sub>1</sub>が欠乏すると、脚気(多発神経炎)を起しやすくなり、また貧血や末梢神経炎、手足のしびれや感覚の異常が起ります。そのほか、高血圧、骨粗しょう症、不眠や安眠薬うつ状態などの精神症状、認知症、さまざまがんの原因にもなると分かっています。ほとんど飲酒が肝臓です。  
※今回は、ひよっしアルコール依存症ではして。

◆毎週月曜連載 桐生大学・桐生大学短期大学部副学長の山科章さんは、同大学医療保健学部の学生などに講義も開講している。